

窓口支援事例 【埼玉県 知財総合支援窓口】

企業情報

共伸プラスチック株式会社			
所在地	埼玉県飯能市下川崎507-2		
ホームページ URL	http://www.kyoshin-plastic.co.jp/		
設立年	1963年	業種	プラスチック製品製造業
従業員数	250人	資本金	5,000万円

企業概要

当社は1963年に設立し、設計から成形加工・塗装・組立完成品までの一貫生産体制のもと蓄積された独自性技術をもってお客様のニーズにお応えしております。工場は本社・飯能工場、同じく埼玉県日高市にある日高工場、福島県二本松市にある福島工場、宮城県大崎市にある宮城工場の4カ所を有しています。



設立以降、1988年には振動による摩擦熱を利用して部品の溶着を行うバイブレーション溶着技術を導入し、2000年に稼働した福島工場では、業界一と誇れる「RIM成形」専用工場として、大型・複雑な形状をした成形品が製造可能なDCPD-RIM成形技術樹脂塗装などの新技術を積極的に研究開発・導入し、各分野へ幅広く製品の提供を行っております。

自社の強み

◇サポート、設計支援

構想段階・仕様変更による形状の確認や期間短縮・効率化のために3Dデータへ対応したシステムと金型から生産まで一貫したサポート体制を整え、お客様のニーズをとらえております。



◇ISOについて

品質保証の国際規格であるISO9001認証を取得しました。

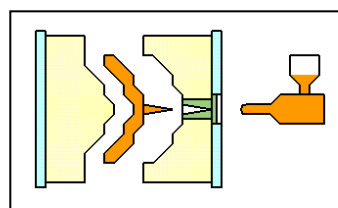
◇環境への取り組み

当社は、事業活動に伴う環境負荷を可能な限り抑制し、環境保全活動を推進しています。

一押し商品

◇インジェクション技術

現在、プラスチック成形品の多くはインジェクション(射出成形法)によって生産されています。当社においても、主力生産部門であるインジェクション部門には、多品種少量から大量生産にいたるまでユーザーニーズに幅広く対応できる生産システムが整えられています。



知財総合支援窓口活用のポイント

窓口活用のきっかけ

同社は以前から公益財団法人埼玉県産業振興公社(中小企業支援センター)の専門家派遣など経営や技術の支援を受けているなかで、樹脂成形のひげや凹みのできない成形方法が可能になりました。そこで、特許取得によるビジネスチャンスの拡大なども想定されたことから当社にある知財総合支援窓口へ相談にすることとなりました。

最初の相談概要

樹脂成形技術では、孔の部分は樹脂の流れが合流するのでウェルドラインができるが、同社で孔の箇所も成形体で造り込み、成形後に孔部分のパーツを抜くことによって樹脂の回り込みを無くしてウェルドラインができない成形品製造の技術が完成しました。

そこで、同社の取締役よりこの方法で特許を取れないかとの相談を受け、類似技術等の権利化状況確認などの調査手法を助言し、出願可能性を検討することとなりました。

その後の相談概要

最初の相談を受けて、出願可能性を検討した同社の取締役より特許出願及び弁理士へ依頼の意向が固まったことを受け、窓口支援担当者が知財コンタクター(登録弁理士マッチング)支援及び特許等取得活用支援マネジメント強化事業の専門家活用などを提案し、両制度を活用することとなりました。

専門家によるアドバイスに基づく調査の結果、孔の箇所も成形体で造り込み、成形後に孔部分のパーツを抜く技術はあるが、孔部分をカットし易くする金型構造がなかったため、その構造の特許出願をすることになりました。出願にあたっては、登録弁理士マッチングによりマッチングした弁理士に出願を依頼し、出願を行いました。

窓口を活用して変わったところ

今まで当社では特許出願を行うことがありませんでしたが、ウェルドレス成形の技術が完成した際に、他社に真似されないよう窓口支援担当者から同社の取締役へ特許出願の重要性を説明し、理解を得ました。また、同社の取締役から他の役員にも出願の重要性を説明・説得して、出願につながるとともに、社内で知財活用の認識が高まりました。

これから窓口を活用する企業へのメッセージ

自動車部品の比率が高い企業においては、さらに製品が海外に送られたり、海外で生産されたりするようになっていくことが見込まれます。加工方法のノウハウを上手く売り込んでビジネスの展開を図っていくことも重要と考えます。

窓口担当者から一言 (氏名: 小林 公)



現場の改善活動から、知財の重要性に気づき、特許出願に至ったケースです。他社が注目する樹脂成形技術を持っているので、そのノウハウを知られないようビジネス展開していく経営が重要です。